

心臓は、血液を全身に循環させるポンプの働きを担っているが、通常、**自律神経系によって無意識のうちに調整**がなされており、激しい運動をしたり興奮したときなどの動悸きや息切れは、正常な健康状態でも現れる。



強心薬の働き

1. 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。
2. 心筋に作用して、その収縮力を高めるとされる成分（強心成分）を主体として配合される。

強心成分

心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して、センソ、ゴオウ、ジャコウ、ロクジョウ等の生薬成分が用いられる

1. ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺せんの分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。

2. 皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示し、センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。

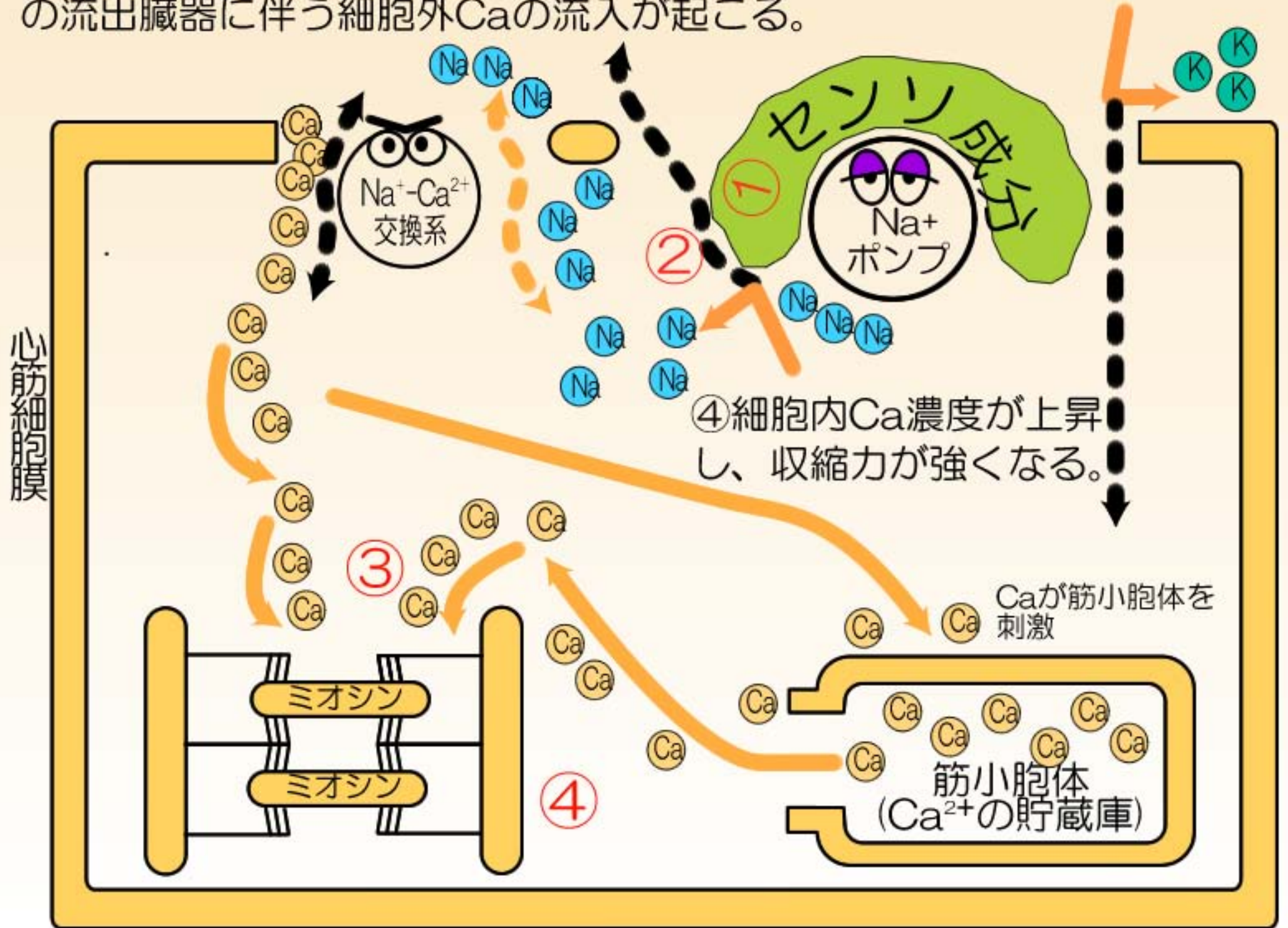
1日用量中センソ5mgを超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。

通常用量においても、悪心（吐き気）、嘔吐の副作用が現れることがある。

また、長期に渡って使用するとかえって心臓に負担を生じるおそれがあり、漫然と使用を継続することは適当でない。



- ① センソ成分が、心筋細胞膜のNaポンプ機能を維持する酵素を阻害する。
- ② 細胞外に流出するNaの一部が細胞内に貯蓄する。
- ③ 細胞内のNaの増加によりNa-Ca交換系を介した細胞外Naの流入と細胞内Caの汲み出しが減少し、さらに、同交換系の逆回転による細胞内Naの流出臓器に伴う細胞外Caの流入が起こる。



ジャコウは、シカ科のジャコウジカ又はその近縁動物の雄のジャコウ腺せん分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。



ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢のう中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。



ロクジョウは、シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いた生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。